

経営学部 板橋黎

2月11日から約2週間、国際グローバル研修に参加しました。本研修では、ハンガリー・ブダペスト商科大学での講義参加や体験型プログラムを通して現地学生と交流する機会が多くありました。今回の研修を通して多くの経験をし、学びを得ることが出来ました。それらを三つ述べたいと思います。



一つ目は、ハンガリーでの生活を通して異文化を実際に経験できたことです。ハンガリーで生活を送る中で、食文化には特に日本との大きな違いを感じました。ハンガリーの主食はパンで、ケニエルといわれる大きなパンはとても印象的でした。ハンガリーにはパプリカを使った料理がたくさんあり、パプリカを粉末にして香辛料として使っていることにも驚きがありました。また、美しい街並みから、ハンガリーの歴史や芸術を肌で感じる事が出来ました。ハンガリーには、ゴシック様式やルネサンス様式、バロック様式などの様々な建築様式が存在し、建物の様式は作られた年代を表しています。そういった観点からみる伝統的な建物、ブダペストの街並みは洗練されており、多様で、個性的でした。現地での生活を通して文化の違いを肌で感じる事が出来、貴重な経験になりました。

二つ目は、本研修のテーマでもある『持続可能な経済発展』について、現地プログラムによって理解を深めることが出来た点です。主にハンガリーと日本におけるゴミ収集の現状や環境問題について学ぶ機会が多くありました。私たちは、アルベルトファルヴァ幼稚園やアラニ・ヤーノシュ小学校を訪問し、環境教育の重要性に気づかされました。訪問先の幼稚園には環境コーディネーターといわれる環境教育を中心に教えている先生がいました。教育内容としては、日常的にアクティビティとして、楽しみながらゴミの分別に取り組むことや再生紙を用いた工作など多岐にわたります。幼稚園児が学んだことを家に持ち帰り、家族に伝えることによって知識が浸透します。こうした好循環の実現の重要性について学ぶことが出



た。幼稚園児が学んだことを家に持ち帰り、家族に伝えることによって知識が浸透します。こうした好循環の実現の重要性について学ぶことが出

来ました。また、サステナビリティの精神に基づき、廃棄物の分別管理やエネルギーと水資源の節約を意識した取り組みを通じて、環境に優しく自然を尊重する習慣の基礎を身につける姿勢に日本との大きな違いを感じました。

三つ目は、異文化間コミュニケーションです。ブダペスト商科大学は、国際色豊かで世界各国から留学生が訪れています。そのため様々な国籍の学生と交流を深めることが出来ました。私たちが参加した講義やプログラムだけでなく、ブダペスト市内観光やアイススケート体験、食事会など全てにおいて、現地学生のサポートがありました。私たち日本人



を大いに歓迎してくれたこともあり、すぐに馴染むことが出来ました。これまで海外に一度も行ったことがなかった私にとって、新鮮でとても貴重な機会だと感じました。英語を用いたコミュニケーションでは、自分の意志をうまく伝えられない場面が多々あり、自身の英語力不足を痛感しました。英語が母国語ではないという条件はハンガリー人にも当てはまりますが、流暢に英語を話し、英語で講義を受ける光景に驚きました。コミュニケーションツールとして英語の重要性を再認識すると同時に今後、英語を勉強する大きなモチベーションになりました。また、他国の人々との交流を経て、異文化間コミュニケーションには、客観性を持ち、自分と相手の違いを理解し、尊重する姿勢を持つことが重要であると学びました。そしてさまざまな文化や習慣、価値観が折り重なる環境で生活することで、日本では決して得ることのできなかつた異文化に対する理解力を深めることが出来ました。

今回、国際グローバル研修に参加してたくさんの貴重な経験をする事が出来ました。これらの経験を将来に生かしていけるように頑張りたいと思います。そして、この国際グローバル研修に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。